

Once upon a time in Utsunomiya

一枚の絵葉書から 石井敏夫コレクションより 第46回

上野呉服店(今は無き上野百貨店の前身)
陳列会の案内状(大正時代)

広告絵葉書

絵葉書の源流は、一九〇〇(明治三十三年)九月十七日に通信省が私製葉書の制式を告示したことに遡る。それまで葉書はすべて官製に限られ、写真や図案などを用いた私製葉書の製造と使用は認められていなかった。『郵便事業120年の歴史』

(郵政省郵便局郵便事業編纂室編)によれば、二八八〇(明治三十三年)四月 葉書の表裏を墨で塗りつぶしもの使用は認めず、裏面のみ可」とあり、表面には住所姓名しか記載できないことになっていた。

また、二八八九(明治三十二年)二月十三日 民間の製造した葉書を、外国用に使用すること

を認む」とあるなど私製葉書認可に向けては幾多の変遷があったらしい。

それでは絵葉書の最初はと言えば、一八八八年にドイツのベルリンに住む工業家フライリッヒ・フォン・ヘンデルが自社工場を撮影し、事業の広告宣伝を目的に印刷して得意先に贈った

のが始まりとされている。(『画はがきの歴史』横石落江)日本でも私製葉書の認可と共に、商業活動の一環として盛んに広告絵葉書が作られるようになっていった。

今回紹介する絵葉書は、明治の終わりから大正にかけて宇都宮で発行された「広告絵葉書」である。従来紙面で紹介してきた名所絵葉書とは異なり、呉服店、製粉会社、病院で、売り出しや年賀状として配られたもの。今で言うダイレクトメールの萌芽がここにあったと言つてよい。

案内を記した表面



相場を記入した広告絵葉書。
宇都宮製粉株式会社が顧客に配ったもの。
明治38年3月30日



藤田病院の年賀状。
表面の消印に大正9年1月1日とある